

独自の外国語教育15年

甲南大国際言語文化センター

12日、記念フォーラム

た外国語合宿など、特色ある取り組みを続けてきた。今年、週刊朝日進学ムックの外国語教育に対する学生の満足度調査では、関西の大学でトップの10位にランキングされた。

フォーラムでは、リポーターの井上公造さんが「日本文化を外国にどう伝えるか」と題して講演。同センターの中村耕二教授、中村典子教授らが「大甲南大における外国語教育の現在と未来」をテーマに討論する。

甲南大全学部の語学教育を担当する国際言語文化センターが開設15年を迎え、12日に記念のフォーラムを開く。

同センターは1994年に設立。外国語教育、異文化理解のプロ集団として独自の教育プログラムを研究している。

「使える外国語」の習得を目標に、英、独、仏、中、韓の5言語を開講。15〜25人程度の少人数授業、インターネット教材の開発、日本語を禁止し

同センター所長の胡金定教授は「フォーラムでの議論をもとに、各学部の専門教育に合わせた特別授業の創設など改革を続けたい」と話している。フォーラムは午後0時45分から神戸市東灘区岡本8の同大5号館で。参加無料。9日までに電話などで申し込む。同センター ☎078・435・2326